



師走に入り今年も残すところ一か月です。大人にとってはせわしい一ヶ月ですが、子どもたちにはいろいろな行事があるのでお楽しみの12月です。また、これから気温の変動が出てきます。暖かいなあと気を抜いていると急に寒さがやってきて、大人もですが子どもたちもコンディションを崩してしまいます。「病は気から」と言われるように、気の持ちようが病気に対する“身構え”をすることができ、病気を寄せ付けない心と体を育てていければと思います。11月からはもも、ふじ、ばら組さんは朝のマラソンが始まりました。寒さが厳しくなる前から徐々に寒さに負けない気持ちを育て、ほぐれた体で一日の生活がすごせるようにしていきます。クラスごとに園庭を数周走り、走り終わった後は「心臓がどきどきしている」など、体の変化に気づいている子もいます。



自分の体のことに関心を持つことも大切です。一人一人の体調を確認しながらマラソンを頑張っていきます。

「ささやま幼年消防隊 任務完了！」

11月9日から始まる、全国火災予防週間の一環として“ささやま幼年消防隊”が地域の住民の皆さんは守るために出動しました。第1消防分団のポンプ車を先頭に、ハッピー姿



のばら組さんが拍子木をうちながら「火の用心 マッチ一本 火事のもと」を連呼しながら総勢38人で篠山校区を回りました。久留米消防本部より消防署長さん、第一分団団員さん、保護者会役員さん、最後尾にははしご車が一緒に付き添いをしてくれました。住民の方より「がんばって」と声をかけられ、一段と声に力が入っていました。消防署長さんからは、「火遊びは絶対にしてはいけない」というお話がありました。



【お知らせ】

篠山保育園前園長 足立杉男が先月17日に永眠致しました。生前は、大変お世話になりました。ここに報告いたします

12月の行事予定表

- 5日(土) 保育展準備
- 6日(日) 保育展・パザー
- 9日(水) 歯科検診 am10:00~
- 10日(木) 誕生会
- 17日(木) もちつき会
- 22日(火) 避難訓練
- 25日(金) クリスマス会
- 28日(月) 保育納め

7日、21日 … えいごであそぼう(ふじ組)
14日 … えいごであそぼう(ばら組)

○12月29日~1月3日までお休みです。

○休日保育は、年明けて1月10日(日)からです。

すみれ組さんへ

年間行事でお知らせしていました子育て交流会『すまいる』は、新型コロナウイルス感染予防のため中止いたします。

げんきもりもり 高良山登り!!

11月4日、ばら組さんは森林公園をめざして山登りに挑戦。“気合は十分”最後までみんなで励まし合い登りきることが目標です。すれ違う登山者の方に「おはようございます」とあいさつをし、気持ちを高めているようでした。森の中では鳥がさえずり、台風で倒れたのか大木が登山道の上にトンネルのように横たわり、自然を満喫しながら約1時間、森林公園に到着しました。山頂から街並みを見た時に、歩いてここまで登れたことに満足気でした。森林公園では迷路探検あそびでさらに盛り上がり、充実した一日になりました。



かぜからくる 急性中耳炎に注意

かぜをひいた後、気をつけたいのが「急性中耳炎」です。鼻水が耳管(鼻と耳をつなぐ管)を通して耳に流れ込み、炎症を起こします。子どもは耳管が短くて太いため、急性中耳炎になりやすいのです。

症状

・鼻水はこまめにとる・強くかまない。片方ずつやさしくかむ

一時的な難聴、閉そく感

高熱

激しい耳の痛み



親の悩み 1歳児

「毎日いたずらばかりして、ほとほと困っています」

【行動の意味】“小さな科学者が一生懸命『学習』している姿です。”

・ティッシュを何枚も引き抜いたり、衣装ケースの中身を床に全部出しちゃったり。いたずらは、興味、関心、好奇心の賜物で、探求心の旺盛な小さな科学者が、頭の中で「これはどうなっているの?」と考えながら学習している姿なのです。手は突出した脳とも言われるように、その動きに子どもの興味が表れます。

自分の要求に従って行動することで、自分のやりたいと思ったこともやれるんだという意識が芽生え、自発性が育っていきます。いたずらを繰り返すことで、同時にものを扱う力が育っていきます。

【対応法】“たまには大目に見て、やらせてあげましょう”

・子どもが目を輝かせて夢中になっていたり、自分の世界に没頭して様子があるのなら、子どもの成長のために大目に見てあげることも大切です。いたずらを否定して厳しく叱ると、だんだん自発性が育たなくなり、じぶんから色々なものに対して働きかけなくなります。「これくらいだったら、やってもいいかな」ということは、許容してあげましょう。ただし、いたずらされて困るものは、子どもの手の届かないところにしまっておくことです。

また、危険なことやどうしても困ることはやめさせる必要があります。その場合、単に『ダメ』というのではなく、「お花抜いちゃったら、植えたおばあちゃんがかんがえるよ」など、なぜダメなの真剣に訴えることが、思いやりの気持ちにもつながります。

「0歳児から5歳児の行動の意味とその対応」 今井和子著